

「失われた時を求めて」下書き出版

全75冊計画 現物そのままで

フランスの作家、マルセル・ブルースト(1871~1922)が残した傑作「失われた時を求めて」の下書き帳75冊を、現物そのままに出版する計画が始まった。編集に当たった約20人の研究者のうち10人が日本人。このほど第54巻の部分が、最初の1冊としてベルギーの出版社BREPOLSから刊行された。

生涯にわたって加筆や修正を行ったブルーストは、この小説の下書きを作るに当たり、大学ノート

を使用した。右ページに原稿を断片的に書き、左ページは後で加筆、修正するスペースとして活用。下書き帳は、さまざまなエピソードや人物を有機的に関連づけ、複雑で壮大なストーリーを織りなす母体となった。

第54巻は、全7編からなる長編小説の第6編「消え去ったアルベルチーナ」に相当する。ブルーストの実人生と作品が密着した最もドラマチックな部分で、左ページの書き込みも多く、書ききれずに

紙を足した跡も見られる。写真版と、活字に起こした版をそれぞれ同じページに組んでいる。

出版計画は、「生成研究」の集大成として2003年から企画された。生成研究とは下書きなどの資料に基づき、作品の成立過程を探るもの。70年代初頭からフランスで始まり、日本人研究者が特に多くの成果を上げてきた。第54巻は、フランス国立科学研究所の2人の研究員と、中野知律・一橋大教授が手掛けた。今後、15年間で全75巻の出版を目指す。

計画に携わっている和田章男・大阪大教授(54)は「これまで専門家しか近づけなかったノートが公開される意義は大きい」と語っている。(浪川知子)